

震災の教訓、浪曲で

菊地まどかさん 気仙沼、南三陸が題材



阿部さん④かららせん階段の話などを聞く菊地さん

浪曲師の菊地まどかさん(41)が、気仙沼市と南三陸町をテーマにした防災浪曲の制作に取り組んでいる。先日、両市町を訪れ、東日本大震災の様子などを聞き取りした。菊地さんが感じ取ったことを作品に盛り込んで、来年3月に両市町で披露することになっている。

菊地さんは、1993年(昭和19)年の室戸台風を題材にした「吉岡先生教壇に生く」、1854(安政元)年の安政の大地震で襲来した津波の実話を基にした「稲むらの火」の2作を防災浪曲として披露しながら、各地で自然災害の教訓を語り継いでいる。

「稲むらの火」は、津波から人の命を救うため、稲むら(稲の束)に火を付けて人々を高台に誘導した濱口梧陵(ごりよう)の実話が題材。菊地さんは、南三陸ホテル観洋で2月に開かれた全国

語り部シンポジウムなどでも披露している。今回の作品は3作目の防災浪曲。南三陸町志津川の高野会館、防災対策庁舎、戸倉小学校跡地などを訪れ、現状などの説明を受けた。

市内内ノ脇の阿部泰児さん(阿部長商店会長の旧自宅では、避難所に設置した外付けのらせん階段に興味を示し、階段を設置した理由、階段を使って近所の人たちが避難したことなどを阿部さんから聞き取った。今後は浪曲作家と打ち合わせしながら、作品作りを進める。

菊地さんの所属事務所「阿部泰児さん」の所属事務所の齊藤寿是さんによると、浪曲で自然災害の教訓を伝えているのは珍しいという。齊藤さんは「震災を体験した人たちの話を聞き、感じるものがあった。どのような作品にするのかをしっかりと煮詰めて、心に響くようなものを完成させたい」と話している。

2018年3月23日(金)
三陸新報